

# alba lab 株式会社

CORPORATE PROFILE





# AGENDA

## 01 わたしたちのミッション

## 02 透析について

- 1 透析とは
- 2 なぜ透析は患者にとって辛いのか
- 3 透析生活における患者のストレス相関図
- 4 HDPという透析量を表す指標
- 5 透析患者のQOL（生活の質）が向上するセルフ透析とは
- 6 セルフ透析と従来の透析との違い

## 03 社会的評価

## 04 主な取り組み

## 05 今後の展望

## 06 パートナー企業 私たちの取り組みに賛同する企業

## 07 沿革

## 08 会社概要

## 09 代表取締役 櫻堂 渉（さくらどう わたる）について

- 1 プロフィール
- 2 略歴
- 3 事業への思い

## 10 お問い合わせ先



## 01 わたしたちのミッション

# QUALITY OF LIFE

---

治療を超えた透析患者のQOL（生活の質）向上のため  
医療ソーシャルビジネスを展開しています。  
仕事と透析治療を両立できる透析の仕組み「セルフ透析」を  
日本で初めて開発しました。

# 透析とは

腎臓の働きが低下した人が体内の老廃物や余分な水分を排出するための治療法です。

健康な腎臓は血液をろ過して不要な物質を尿として排出しますが、腎不全になるとその機能が失われるため人工的に血液を浄化する必要があります。

透析は腎臓の代わりに体を健康に保つための療法ですが、完治するわけではなく、継続的な治療が必要です。



### ① 時間の制約

標準的な透析回数と時間は、週3回、1回につき4時間の固定化が一般的とされている。患者の生活パターンを透析施設のスケジュールに合わせる必要があるため就業している患者はスケジュール管理が難しく、会社を退職するケースが多数発生している。

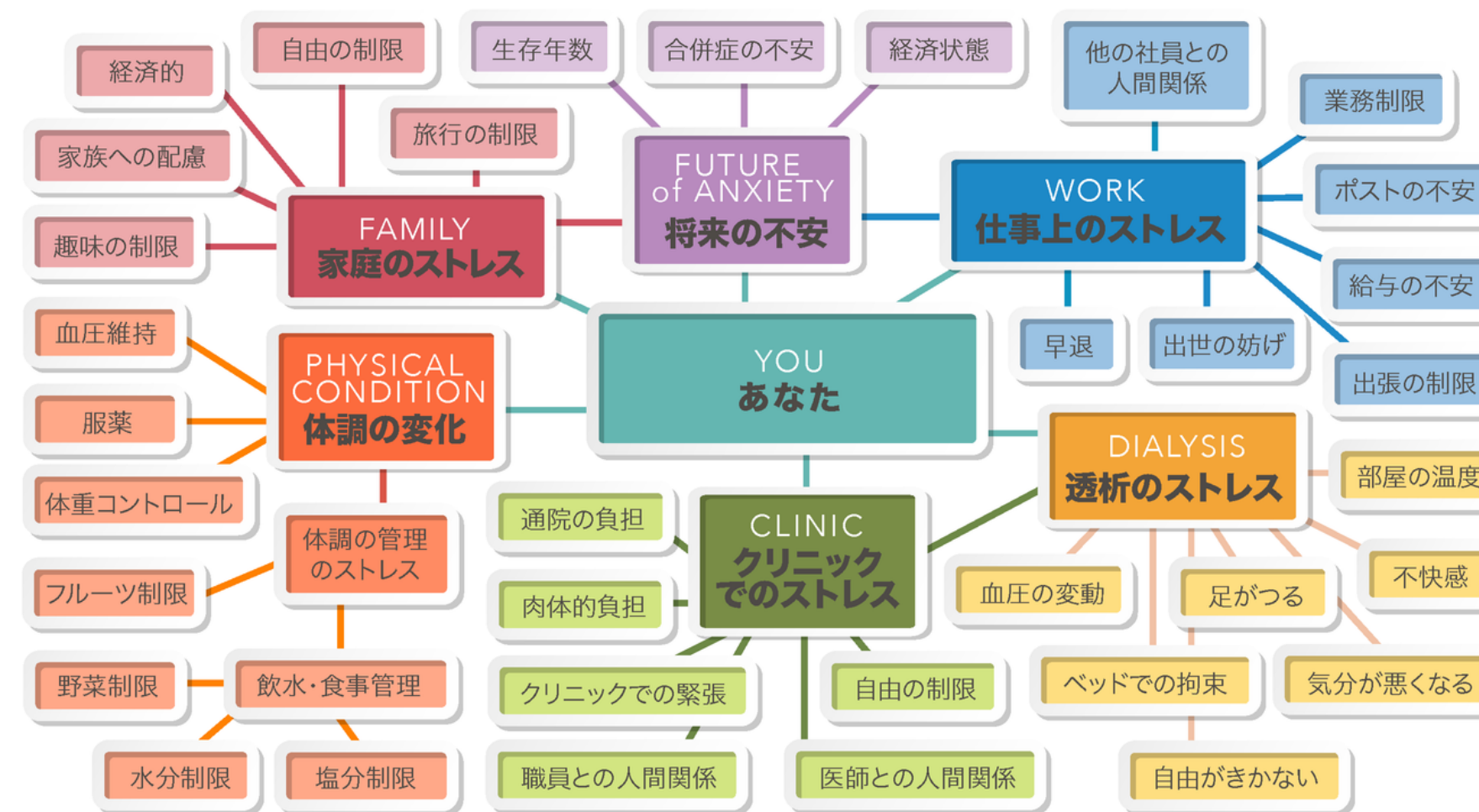
また、透析中はベッドに寝たまま過ごさなければならない透析施設が多く、透析中の過ごし方が制限される。

### ② 健康維持の困難さ

透析量が多いほど健康や生命予後は良好である。（透析医学会指針より）しかし、ほとんどの医療機関は、週3回4時間の透析時間と頻度にとどまっている。つまり患者にとって透析不足の状態が一般化してしまっているため、透析量が多いとはいえない。（02-4参照）合併症の発症や体調不良、多量の服薬などが余儀なくされる現状がある。



# 透析生活における患者のストレス関連図



# HDPとは

## 1回の透析時間 × (1週間の透析回数) <sup>2</sup>

Hemodialysis Productの頭文字を並べたもので、Belding Hibbard Scribner (ベルディングスクリブナー)医師らが臨床データを基に提唱した「透析量の適正さ」を表す指標。※

この値が大きければ大きいほど望ましい透析ができている。  
論文では72以上が支障のない生活を送るうえで望ましいとされる。

日本の透析の現状は週3回、1回につき4時間の頻度であり「36」と不十分である。

| HDP       |              | 1 回の透析時間 |            |       |     |       |     |     |     |
|-----------|--------------|----------|------------|-------|-----|-------|-----|-----|-----|
|           |              | 3時間      | 4時間        | 4.5時間 | 5時間 | 5.5時間 | 6時間 | 7時間 | 8時間 |
| 1 週間の透析回数 | 3回           | 27       | 36<br>通常透析 | 40    | 45  | 50    | 54  | 63  | 72  |
|           | 3.5回<br>(隔日) | 37       | 49         | 55    | 61  | 67    | 74  | 86  | 98  |
|           | 4回           | 48       | 64         | 72    | 80  | 88    | 96  | 112 | 128 |
|           | 5回           | 75       | 100        | 113   | 125 | 138   | 150 | 175 | 200 |
|           | 6回           | 108      | 144        | 180   | 216 | 198   | 216 | 252 | 288 |
|           | 7回           | 147      | 196        | 221   | 245 | 270   | 294 | 343 | 392 |

—追加参考情報

透析時間は、透析量を決定する一要因ではあるが、透析時間が長いほど死亡リスクは低下することが認められている。

一般社団法人日本透析医学会  
日本透析医学会雑誌46巻 7 号2013 P599  
2. 透析時間 1)透析時間と生命予後 より抜粋

※ 参考文献：Dialysis & Transplantation/Vol.40/Issue10/p431-433/(Belding H.Scribner MD, Dimitrios G.Oreopoulos MD) 2011年10月17日発行

# セルフ透析とは



## 患者が透析のスキル を身につけて自ら 透析を行う

セルフケアは「自己で気かけ、管理する」だけではなく、自分に関心をもち、面倒をみること。医療者に依存しないことで自立を確立でき、心理的安全性が確保される。



## 合併症リスクを軽減 させる適切な透析量 HDPを指標

従来からの透析は、「週3回4時間」の透析が一般的だったが透析医学会の提唱では、「透析時間が長いほど死亡リスクが減る」とされている。保険診療で好きなだけ透析できるしくみを構築。



## 透析時間を有効活用

最低でも週3回4時間ずつ以上の透析を行わないと生命維持ができない療法は患者にとって時間的制約が大きい。セルフ透析センターは、サテライトオフィスとしての機能も持ち、透析中もテレワークができる環境を提供。



|          | セルフ透析                             | 従来の透析                       |
|----------|-----------------------------------|-----------------------------|
| 透析頻度     | 週3回4時間以上できる                       | 週3回4時間で固定                   |
| 食生活      | 自由度が増す                            | 厳しい制限                       |
| 合併症リスク   | リスクが減る                            | リスクが増える                     |
| 時間調整     | 患者のライフスタイル優先の透析予約で仕事も継続できる        | 病院が指定した日時に透析予約で退職が必要なケースが多い |
| 自立度      | 医療者に依存しない自立した透析生活ができる             | 知識が得られず、医療者に依存せざるを得ない       |
| 透析中の過ごし方 | 心理的安全性が保たれたプライベート空間で<br>テレワークもできる | ベッドに横にならなければならず<br>活動が制限される |

# 受賞対象：患者が主体の透析の仕組み 「セルフ透析システム」



2024年度 グッドデザイン賞

2024年度 グッドフォーカス賞〔新ビジネスデザイン〕受賞

審査総数 5773件中 3 件が選出



## グッドデザイン賞審査委員による セルフ透析に対する評価コメント

医師主導に偏った透析環境に疑問を抱き、改善すべき課題として捉え、高いレベルで解決した実行力が評価された。優れたシステムの導入により、柔軟な時間調整が可能となり、就労機会の増加や、透析時間を自ら調整することによる健康状態の向上が実現している。また、プライバシーを考慮した、病床感を払拭した書斎のような空間は、透析時間を仕事や趣味に有効活用できるため、患者のストレスを大幅に軽減し、QOL（生活の質）の向上に大きく貢献している。さらに、このシステムは患者に限らず病院の人的リソースの節約や医療コストの削減に寄与している点も見逃せない。

## 04 主な取り組み



### オンラインセミナー

近年、透析治療のスタンダードとなっているHDP理論の解説と、Oasis Medicalが提供するセルフ透析の実際について透析施設をプロデュースする櫻堂渉が丁寧に解説いたします。



### ニューズレター

透析患者やそのご家族に向けた定期講読無料誌。2025年5月で創刊10年目を迎えました。透析患者のQOL向上の為健康改善や暮らしに役立つ情報、患者さんのインタビュー記事等を掲載しています。



### 透析あんしん相談室

長年透析治療に携わり、透析治療の全てを経験してきた当法人のエキスパートナースがあなたの透析ライフについて共に考え、あなたにとって最適な透析治療についてご提案させていただきます。



### メールマガジン

透析患者さんやそのご家族の為に、より、豊かな毎日をお過ごしいただくための情報をお届けしています。代表の櫻堂とスタッフが毎日送信中。



### SNS各種

透析患者さんが、より豊かに生活し、治療を超えた、ウェルビーイングを目指した人生をデザインするための情報を発信しています。



### Podcast

「誰もやらないビジネスの作り方」を毎週金曜日早朝配信中。制作は、Podcast Studio Chronicle（代表：野村高文氏）。代表の櫻堂とパーソナリティーを務めるのは情報社会学者 塚越健司氏。櫻堂のキャリアヒストリーを通じて、挑戦するビジネスパーソンにヒントをお届けします。



### サミット/フォーラム

年に1回、これまでの透析医療の常識を覆し、患者さんがより豊かな生活をできるよう、普通の生活を送ることができるよう透析医療の仕組みのあるべき姿をお示しし、患者さんのQO効能を促しています。2025年からは大規模に刷新する予定。



### 透析ギタリスト ジャズライブ

年に2回、セルフ透析をしながら元気に音楽活動を行うギタリストをお迎えして、オアシスメディカル施設のスペースを利用してジャズライブを開催。2025年5月で2回目の開催。以降定期的な開催を予定しています。全国各地から患者さんが元氣を受け取りにきます。

## 05 今後の展望



既存の透析医療機関との協業を通じた新たな展開を開始します。セルフ透析の導入支援を核とし、経営戦略・人材教育・システム整備など包括的な支援を行い、経営難に直面する施設の再生と、患者中心の持続可能な医療の実現を両立させます



透析患者が自立して透析を行ったり自己管理を行うことができるよう当社で開発したe-ラーニングシステムを用いた学習支援システムの特許を出願いたしました



患者の自己管理の質を高め、負担を安全に減らすために第三者機関と自己管理支援、アウトカム研究を進めます



## 06 パートナー企業 (私たちの取り組みに賛同する企業)

**AWO**

ANAウイングフェローズ・ヴィ王子株式会社



Chronicle



**General Partners**

**nosh** ナッシュ

# 沿革

|       |                                                     |       |     |                                                               |
|-------|-----------------------------------------------------|-------|-----|---------------------------------------------------------------|
| 2001年 | 医療経営戦略研究所を立ち上げる                                     | 2024年 | 5月  | チバテレ 魚住りえのカイシャを伝えるテレビ 出演                                      |
| 2003年 | 透析施設専門サイトを開設（透析検索.com）                              |       | 10月 | グッドデザイン賞受賞 グッドデザインベスト100<br>グッドフォーカス賞〔新ビジネスデザイン〕選出            |
| 2006年 | 病院マネジメントを行うalba lab株式会社を設立                          | 2025年 | 1月  | 共同通信社より取材。報道機関各所へ<br>「仕事と透析が両立できる」 取り組みとして 配信<br>全国新聞各社26社へ掲載 |
| 2008年 | 「田端駅前クリニック」を開設<br>-日本初となるオールチェア式の透析施設               |       | 2月  | テレビ朝日「未来をここから」プロジェクト<br>SDGs企画にて「セルフ透析」がANNニュースにて放送           |
| 2015年 | 「東京新橋透析クリニック」を開設                                    |       |     |                                                               |
| 2020年 | 「Self care Dialysis Center(SDC)」を開設<br>-日本初のセルフ透析施設 |       | 3月  | ポッドキャスト「誰もやらないビジネスのつくり方」<br>パーソナリティを櫻堂渉が務め、毎週金曜日配信            |

# 会社概要

## 企業名

alba lab 株式会社

## 代表取締役

櫻堂 渉（さくらどう わたる）

## 本社所在地

〒114-0014  
東京都北区田端1-21-8 NSKビル4階

## 事業内容

医療ソーシャルビジネス  
医療機関の経営管理業務  
医療経営及び組織運営・管理に関する教育事業  
医療に関する情報システムの企画、  
開発、販売  
医療・健康に関する製品の販売

## 設立年月

2006年9月

## グループ会社

医療法人社団 Oasis Medical  
セルフ透析センター（田端駅前クリニック内）  
東京新橋透析クリニック  
田端駅前クリニック

一般社団法人 Global Alliance Toseki Support

株式会社 医療経営戦略研究所





alba lab 株式会社 代表取締役

## 櫻堂 渉

---

さくらどう わたる

医療法人社団 Oasis Medical COO

株式会社医療経営戦略研究所 所長

日本薬科大学 客員教授

医療経営学会 評議員

慶應義塾大学大学院経営管理研究科（MBA）経営学修士取得

## 09-2 略歴

# 透析医療プロデューサー ヘルスケア・マネジメントの エキスパート 櫻堂 渉 について

1995年より透析医療施設専門のコンサルタントとして施設の課題解決に従事。延べ200以上の透析医療施設の経営支援を行う。株式会社システム総合研究所（病院システム開発研究所）では事業統括部長を務め、基幹病院の基本構想、システム設計、透析医療施設の戦略立案、経営改善業務などを手がけた。

その後全国腎臓病協議会、日本透析医学会、日本透析医会等のアドバイザーとして合算15年以上患者の研究を続け、日本薬科大学客員教授として教壇にも立つ。

持続可能社会の創造に透析医療システム構築の側面からアプローチし、ライフスタイルに透析をうまく融合することで患者のQOL（生活の質）向上に寄与し続けている。



# 事業への想い

20年以上透析医療機関の支援を目的に透析専門の経営コンサルタントとして従事してきました。

しかし、そのさなかで元透析患者（現移植成功者）の「透析治療中、自分はブロイラーのようだった・・・」という壮絶な経験談を耳にし、患者側の支援へ転向いたしました。以後は15年以上患者のQOL（生活の質）向上のために透析医療システムの構築によって挑戦を続けてきております。セルフ透析システムは、透析回数、時間を増やすことのできる環境を整え患者が健康度をあげ、社会に貢献することを可能にしました。

それによって、透析患者の自信を深めることになるでしょう。これが、セルフ透析の世界観です。我々はセルフ透析を新たな選択肢として示して単なる治療の提供にとどまらず、患者さんの人生をより良い未来に誘うお手伝いができればと考えています。



# CONTACT US



03-3923-9080



[pr@oasismedical.mygbiz.com](mailto:pr@oasismedical.mygbiz.com)

お気軽にお問い合わせくださいませ

*Thank you*